

**2021年度
海と日本ニュースプロジェクト
実施報告書**

**2022年3月31日
海と日本ニュースプロジェクト実行委員会**

1 事業概要

1 (1)事業サマリー

海と日本プロジェクトを情報ソースとしたニュース編集部を設置。
海と日本プロジェクトの各イベントや事業を独自の切り口で取材。
それらを動画消費ニーズが高い今の時代に合わせて映像とテキスト記事で掲載する。
本ニュースサイトの記事は既存のニュースサイト（Yahoo！ニュース）と連携させ全国の幅広い層へ海に関するニュースを拡散。
海に対する興味喚起を行う。

PV数 1,770,150

(2022年3月31日時点)

1 (2)実施主体

一般社団法人環境メディアフォーラム

1 (3)実施期間

2021年4月～2022年3月

2 ニュースサイト運用

ソーシャル・イノベーション・ニュース <https://social-innovation-news.jp/>



ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

🏠 > 海洋危機特集

海洋危機特集

海洋危機特集

日本は、四方を海に囲まれた国です。私たちの社会や文化は、海に囲まれた環境の中で形づくられてきており、食べ物、名前や地名、祭りなどさまざまなものが内陸、沿岸問わず海と結びついています。

しかし今、気候変動や自然災害、海洋生物資源の乱獲、生態系のバランス崩壊など、海の危機は私たちの気づかないところで広がっています。海に囲まれた日本に暮らす私たち一人ひとり



日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」である
ソーシャル・イノベーション・ニュースの中に、**海洋危機特集コーナー**を設けた。

コロナ禍や専門性の高いテーマにも対応できるように
強化した独自動画取材チームを設置し、日本財団主催のイベントや
会見の様態を速報性を持つ形で伝えたり、海と日本プロジェクトの自主事業として
行われたイベントの様態を、イベント全体を取材するだけでなく、
参加者に密着するなど**深掘りする**形で伝えることで、**海と日本プロジェクトについて
包括的に発信する媒体**となっている。

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	生態系	海を守る卵たちの全国大会～マリンチャレンジプログラム2020～
2	全国	テクノロジー	水素社会と究極のエコシップ～経済効果は2兆円以上に…ゼロエミッション船を推進するシンポ～
3	全国	安全・そなえ	人気タレントがライフジャケットをオシャレに！～「海のそなえ2021オーシャンセーフティファッションショー」～
4	全国	海の体験機会づくり	クイズイベントの司会は学校の先生～クイズ王・古川洋平プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」の新たな挑戦～
5	全国	未分類	小泉環境相も使用！廃漁網をアップサイクルした鞆～ALLIANCE FOR THE BLUEが取り組んできた廃棄漁網の活用～
6	全国	海の体験機会づくり	宿題にも使える「海×科目」を配信～動画とレポートで学習「おうちで学べる海の教室」～
7	全国	海の体験機会づくり	子ども達の海離れを減らしたい「海のおもいで創造プロジェクト」～国土交通省から表彰された日本財団・海野光行が主導する「海と日本プロジェクト」～
8	全国	海ごみ	未来のノーベル賞受賞者がいるかも！？～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」を受賞したのは？～
9	全国	海の体験機会づくり	半年後には実証実験！無人運航船を児童が体験～無人運航船の実用化を目指す「MEGURI2040プロジェクト」が特別授業～
10	全国	海の体験機会づくり	クイズで海産物GET！海プロ市～食から海を知る「海のごちそうフェスティバル」～
11	全国	調査	鯛の旬は今！？食から海を知るフェス～ごちそうフェスティバルで発表された「海と食」に関する意識調査～
12	全国	海の体験機会づくり	灯台がイケメン化！人気声優による声劇～「燈の守り人」プロジェクト～
13	全国	海の体験機会づくり	熱源サミットの地・島根での海と学び～海を未来へと引き継ぐ者たち④「海と日本プロジェクトinしまね」と「熱源・武田祐子」～
14	全国	テクノロジー	「3D×海洋研究」でイノベーションを！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」でのトークセッションinワコムコネクテッド・INK2021～
15	全国	海の体験機会づくり	子ども達がサメを手配！？～「海の手配師」のお仕事を体験～
16	全国	海ごみ	カゴを調べて2190日～「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」で最優秀賞を受賞した“あいおいカニコブラーズ”～
17	全国	海の体験機会づくり	ごみ拾い日本一に輝いた高校生は！？～全国30エリアから集結『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2021』の決勝大会～
18	全国	海ごみ	スポーツごみ拾いをアニメ化～巨匠が手掛け、人気声優が演じる「スポGOMIワールドカップエキシビジョンマッチ編」～
19	全国	海ごみ	スシローのお店が教室に！？～子ども達に海と食について考えてもらう「熱源熱中授業」～
20	全国	海の体験機会づくり	直木賞作家や絶景PRが灯台を掘り下げる～灯台の新たな価値創造を語り考える「海と灯台フォーラム2021」～
21	全国	海の体験機会づくり	ウニ愛やクラゲ愛が受賞の決め手に～マリンチャレンジプログラム2021全国大会～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1257				



海を守る卵たちの全国大会～マリンチャレンジプログラム2020～

「マリンチャレンジプログラム2020全国大会～海と日本PROJECT～」が、2021年3月7日に行われました。マリンチャレンジプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバネスが2017年から毎年実施。海洋分野での課題を見つけ、人と海との未来を創り出す仲間づくりのため、海・水産分野・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

2020年度は全国から計40チームが採択され、この日は、地方大会を勝ち抜いた15チームによる全国大会がオンラインで開催されました。クラゲの大量発生を抑制するための研究や、藻類を利用して福島県の汚染水処理を目指す研究、学校の実験で扱えるようにウニの一種であるハスノハカシパンの飼育を行うなど、学生たちは1年間の研究の集大成をプレゼンしました。

今大会で表彰されたのは5つで、その1つが、日本財団賞に選ばれた岡山学芸館高等学校の「牡蠣殻を用いて干潟の生物多様性を回復する手法の確立に向けて」という研究です。「干潟は海にとって重要な役割を担っていることを知り、生物多様性を向上させる方法を探りたいと考えた」というきっかけから、岡山県日生町（ひなせちょう）の特産品の1つである牡蠣を利用した研究を実施。米子湾の干潟に牡蠣の殻を設置し、生物量の回復と調査を行いました。受賞理由について、審査員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行さんは「総合的な海洋管理で世界的にも有名な日生町というフィールドで研究活動していることを評価した。さらに、日生町では、日本財団の事業である海洋教育の拠点をつくる『渚の交番』プロジェクトの一環として、『ひなせうみラボ』を設置する。この事業にも関わってもらいたいという期待も込めて日本財団賞とした」と話します。岡山学芸館高等学校は「産業廃棄物の再利用として牡蠣殻を使い、干潟での生物多様性の向上のデータをとり、他の干潟でこのデータを利用して、環境アセスメントに役立てればと思っている」と今後の目標について語りました。

そして、最優秀賞に選ばれたのが、宮崎県立宮崎北高等学校による「ハクセンシオマネキのウェーピング 画像解析と信号処理による分類」です。カニの一種であるハクセンシオマネキが、求愛の際にハサミを振る「ウェーピング」について、なんと画像解析プログラムを自作し、研究を行いました。審査員長の株式会社リバネス 教育開発事業部の部長・西山哲史さんは「今までは目視だったように、海の生き物の行動や生態はどうデータ化していくかが難しい。画像解析プログラムを使ったことで、他の学校の手本となるような研究だった点を評価した」と受賞理由について話しています。宮崎県立宮崎北高等学校は、今後の目標について「ハクセンシオマネキの研究を続けていきたい。また、他の動物でも画像解析を使って様々な研究をしたい」と語りました。

今後のマリンチャレンジプログラムについて、海野さんは「今回でマリンチャレンジプログラムは4回目となり、このプログラムを卒業した人達も増えている。その人達が今度は、応募してきた中高生をサポートする側となり、研究を支援していた。こういった形で層を厚くしていき、ネットワークも増やしていきたい」と、さらなる強化に意欲を燃やしています。2021年度のマリンチャレンジプログラムは、すでに動き出していて、2022年3月に全国大会が行われる予定です。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1261				



水素社会と究極のエコシップ～経済効果は2兆円以上に…ゼロエミッション船を推進するシンポ～

日本財団は、ゼロエミッション船を推進するシンポジウムを、2021年5月18日に開催した。ゼロエミッションとは、二酸化炭素を排出（emission）しない（zero）技術のこと。日本では、菅義偉首相が2020年にカーボンニュートラルを宣言し、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すことが発表されている。その実現に向けた取り組みの1つとして注目されているのが、「水素エネルギー」。水素は酸素と反応させると電気と水が発生し、電気はエネルギーとして利用できる。さらに、水素エネルギーは利用の際に二酸化炭素を排出しない。そのため、すでに自動車などで利用されているように、水素エネルギーを利用した「水素社会」実現への取組みが広がつつある。

船舶の分野では、内航船の二酸化炭素排出量が約1,100万トン（2018年）にも上るため、脱炭素化の動きが広がっている。そこで、様々な船舶事業に取り組んでいる日本財団が主催したのが、水素やアンモニアなどを燃料に使う次世代の船「ゼロエミッション船」を推進するシンポジウムで、特に注目されている「水素エネルギー」について、国や企業が参加し、発表・議論が行われた。株式会社e5ラボは、開発中のゼロエミッションEV船や水素燃料電池船などについて発表。また、川崎重工業株式会社、ヤンマーパワーテクノロジー株式会社、株式会社ジャパンエンジンコーポレーションの3社は、世界に先駆け船用水素燃料エンジンの共同開発を行う新会社「HyEng株式会社」を共同出資で設立することを公表した。そして、日本財団は、内航船におけるゼロエミッション船の普及ロードマップを発表。ゼロエミッション船に代わると、2050年には水素エネルギーの利用が半分以上になると予測、日本全体で約2兆3,000億円の経済効果が期待できるといふ。

一方で、水素などの次世代燃料への転換は、「コストが高い」「インフラが整っていない」などの課題がある。そこで、シンポジウムでは、その課題解決のためのパネルディスカッションも行われた。株式会社e5ラボのCDO・神内悠里氏は、炭素税などの導入を提案。「ゼロエミッション船は製造コストが高いため採算がとれない。ここに大きな壁がある。しかし、炭素税や排出権取引を導入すれば、ゲームチェンジが起こり、経済性が上がる可能性がでてくる。内航海運全体を巻き込むために炭素税などが必要だと考えている」と神内氏は話す。

日本財団は、このようなシンポジウムを行うだけでなく、様々な後押しをしていきたいという。日本財団の常務理事・海野光行氏は「今後、プラットフォームを構築したい。また、政府が補助制度をつくっていくと思うが、抜け落ちてしまうところもあると考えている。そこをサポートするような支援の枠組みも検討する」と話す。さらに、「海と日本プロジェクト」といった様々な海洋事業を展開しているため、「ゼロエミッション船という船の最先端プロジェクトの実情を子ども達に知ってもらい、この先の海がどうあるべきか、どう利用すべきかを考えてもらえるような取組みを、海と日本プロジェクトで実施できたら」という展望も語った。

<動画後半でナレーションに一部誤りがありました。「断続的」と読んだ箇所について、正しくは「継続的（けいぞくてき）」です。お詫びして訂正いたします。>

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1266				



人気タレントがライフジャケットをオシャレに！～「海のそなえ2021オーシャンセーフティファッションショー」～

横浜クイーンズスクエアにて「海のそなえ2021 オーシャンセーフティファッションショー」が、7月10日に開催されました。このイベントは「海を楽しく、安全に」をテーマに、ライフジャケットなどのアイテムを使ったオシャレなコーディネート提案するファッションショーで、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施されました。

水辺の事故は毎年多数発生していて、警察庁の統計によると、2020年までの過去5年間では、毎年500件ほどの事故が起きています。そのため、水辺の事故を防ぐには“そなえ”が重要となります。そのひとつが、ライフジャケットです。ライフジャケットの製造・販売から水難事故防止の活動支援も行っている株式会社モンベルは、ライフジャケットの重要性について「海など流れのあるところで不意に落水した場合、そのまま浮かんでいるのは至難の業。そのため、ライフジャケットが重要になる。車に乗ったらシートベルトをする、オートバイはヘルメットを着用するというように、水辺で遊ぶ際はライフジャケットを着用して欲しい」と広報部の課長・渡辺賢二さんは言います。実際に海上保安庁の統計によると、落水した場合、ライフジャケットを着用していると約2倍も生存率がアップします。しかし、ライフジャケット着用の普及には課題があると渡辺さんは言います。「子どもの普及率は目覚ましく上がってきたが、親の着用率が上がってきていない。子どももちょっと大きくなると、親や大人が着ていないから自分も着なくていいと思う子が出てくる。そのため、大人や中学生以上の子ども達の着用は課題。また、見栄えも非常に重要になってくる。服でもそうだが、着たくないようなデザインだと結局着なくなるので、着てカッコイイデザインというのも重要になってくると思う」。

そこで、行われたのが「海のそなえ2021オーシャンセーフティファッションショー」です。お笑いコンビのオジンオズボーン、木内舞留さん、那須泰斗さん、矢口真里さんの人気タレント4組が、ライフジャケットなどのアイテムを使い、オシャレなコーディネートを作成して披露しました。漢字の覚え歌で話題のオジンオズボーンは、「海を遊び尽くす！アクティブコーデ」をテーマにコーディネートし、篠宮さんは実の子ども2人を連れてランウェイで披露しました。「そなえ」について篠宮さんは「何かあった時に何も用意してないと、それが一番ダメなことなので、子どもができてからは特に“そなえ”ということに関しては、非常に気を使ってきた」と話しています。また、相方の高松さんは「ライフジャケットは準備されるものというイメージが強かったが、これからは自ら準備していくものになればいいかなと思う」と語っています。イベントでは、タレント4組のコーディネート披露のほかにも、防災グッズ大賞を受賞した商品の紹介なども行われました。イベントを主催した一般社団法人「災害防止研究所」の代表理事・吉田明生さんは「今、防災について非常に関心が高くなっているが、自分が災害に遭わないと自分の身に関係のあることだと思わない。このファッションショーは、そなえについて、楽しみながら身近なものだと気づいてもらう、関心をもってもらうという意味で大きな意義があるイベントだった」と話しています。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1269				



クイズイベントの司会は学校の先生～クイズ王・古川洋平プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」の新たな挑戦～

「子ども海のクイズ王プロジェクト」が、目黒区立五本木小学校で7月9日に開催されました。このプロジェクトでは、海洋問題をテーマに、小学生が参加できるクイズ大会イベントを2020年から全国で実施しています。イベントの最中、盛り上がる子ども達のそばで、ひとり真剣な眼差しで見つめ、メモを取る人がいました。東京学芸大学附属世田谷小学校の教諭・名淵浩司さんです。名淵教諭はこのクイズ大会の司会という大役を任されることになっています。

この日の司会は、「クイズ王」として数々のテレビ番組に出演しつつ、クイズ作家やYouTuberとしても活躍している「クイズ法人 カプリティオ」の代表・古川洋平さんです。子ども海のクイズ王プロジェクトでは、問題の作成から現地での司会まで担当するなど、主軸として関わっています。プロジェクトは今年が2年目、古川さんはさらに進化させたいと考えていました。「今後も小学校の数や規模を広げていって、私達が現地に赴かない場合でも“再現”で展開していきたい」と昨年度の取材時に語っていました。その再現のひとつとして考えていたのが、現地の学校の先生に司会を担当してもらうというものです。その第一歩として、名淵教諭が司会を担当するクイズ大会が開催されることになりました。「この話をもらった時から緊張している」と話す名淵教諭は、司会の経験など全くありません。そのため、まずは古川さんから事前にオンラインでレクチャーしてもらうことに。その中で印象に残ったのが、「クイズイベントの参加者は9割以上が敗者になる。負けた人が面白かったと思えるものに私達だけでも握っておくのが非常に大事。そのために“承認”というのを重要視している」ということだったそう。また、「テンションを上げたりとか、進行の方法であたりとかは、授業づくりとすごく似ているところがある」と名淵教諭は語っています。古川さんは「今回はクイズの持っているネガティブな面やマイナスな面や起こりうる失敗というのを事前にしっかりと直視して、クイズがいかにつまらないかというのを考えるのが非常に重要。そのつまらない面を私たち大人がしっかり潰して行くという感覚」とレクチャーで共有したいことができたと話しています。さらに、レクチャーだけではなく、古川さんの司会を見学しに五本木小学校へ。名淵教諭は「紙で見た時は不安感の方が大きかったが、実際に見てみると楽しみ感の方がやっぱり勝る」と話していました。ただ、やはり不安も募ったようで、イベント終了後は、クイズ大会の前に海洋問題などについて学ぶ「レクチャーパート」について古川さんに相談していました。

そして、7月13日、遂に本番当日です。イベント直前、名淵教諭は「めちゃくちゃ緊張している。初めての自分への挑戦でもあるので、今までにない緊張と期待がある」と語っていました。まずは、不安視していたレクチャーパートです。しかし、順調に進み、児童たちは真剣に聞いています。そして、クイズ大会が始まると、児童たちは大興奮。大盛り上がりでイベントは終了しました。児童たちは「すごく楽しかった。勝ちたかったからレクチャーパートも真剣に聞いていた」と大満足だったようです。イベントを終えた名淵教諭は「やってみて楽しくできた。学校教育で順位をつけることについて色んな議論があると思うが、勝者敗者が出ることを楽しむ場づくりというのが、このイベントではパッケージングとしてできていると思う」と話していました。また、「授業と結構違うなと思ったのは、古川さんから『さあ、問題！』と言うだけで、クイズが始まるよという空気ができると教わり、やってみたら本当にそういう空気ができた」と、古川さんからのアドバイスも活用できたと言います。見守っていた古川さんは「先生が素晴らしかった。学校の先生が司会というアットホームの中で、クイズ大会という非日常を体験するという理想的な授業になった」と大成功だったと感じたようです。そして、今後の抱負について「全国の色んなところで、我々がなくてもイベントを実現できるような形をつくっていくのが大事になってくる。海というのを軸に、学校の中でクイズというあまり親和性がないと思われていたものが、学芸会とか運動会とか修学旅行と並んだり、コロナ禍においては変わったりする存在になれるようにしたい」と語っています。

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	未分類
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1273				



小泉環境相も使用！ 廃漁網をアップサイクルした鞆～ALLIANCE FOR THE BLUEが取り組んできた廃棄漁網の活用～

日本財団が「廃棄漁網をアップサイクルした鞆の発表会」を2021年7月20日に行った。アップサイクルとは、廃棄物に付加価値をつけて別の製品に生まれ変わらせる新しいリサイクルの形。

世界的な課題となっている海洋ごみ問題。環境省によると、海岸に漂着したプラスチックごみの中で最も割合が大きいのが漁網となっている。そこで、日本財団は2020年7月、企業間連携組織「アライアンス・フォー・ザ・ブルー（ALLIANCE FOR THE BLUE）」を設立し、廃棄漁網の資源化と製品開発に取り組んできた。そして、廃棄漁網を活用した鞆の製造に至ったため発表会を開催した。

鞆の製造に至るまでには、様々な企業・団体がそれぞれの特徴を生かして連携している。まず、北海道の漁師「山本漁網」が廃棄する漁網を回収。次に、リファインバース株式会社が廃棄漁網から再生ナイロン樹脂「リアミド」を生産。そして、住江織物株式会社がリアミドをもとに糸や布を制作。また、モリト株式会社がボタンなどを制作。最後に、国内一の生産量を誇る鞆の産地・兵庫県豊岡市が「豊岡鞆」に仕上げている。この鞆のごだわりのひとつが、廃棄漁網の配合率を16%から25%に抑えたこと。その理由について、日本財団の常務理事・海野光行さんは「取り扱ってくれる企業や個数をなるべく増加させて、多く流通させることで幅広い人に手にとってもらおうがコンセプト」と話している。配合率を50%にもできるが、あえて配合率を抑えることで全ての事業者が無理なく関わることができ、多く流通できるようにしたという。

鞆の成果について、アライアンス・フォー・ザ・ブルー設立当初「自社で製品はつくれるが、エンドユーザーに届くような商品の開発が難しい」と話していたリファインバース株式会社の常務取締役・加志村竜彦さんは「リサイクル材から良いものができる目に見える形で感じられた」と、今までにない成果に手応えを感じているようだった。また、この鞆を普段から使用している小泉進次郎環境大臣も発表会に出席し、「海洋汚染の問題やプラスチックの問題などについて、前向きに楽しみながら取り組めるようなキッカケのひとつとして、廃棄漁網からつくられる鞆が日常になればうれしい」と話した。

この鞆は、東京駅のそばにある豊岡鞆のオフィシャルショップなどで10月1日から販売される予定。また、アライアンス・フォー・ザ・ブルーでは今後、鞆をモデルケースに文具やオフィス家具などで廃棄漁網のアップサイクルを進めていきたいという。

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1277				



宿題にも使える「海×科目」を配信～動画とレポートで学習「おうちで学べる海の教室」～

全国各地で海にまつわる取り組みを行っている日本財団「海と日本プロジェクト」が、動画コンテンツ型のオンライン授業「おうちで学べる海の教室」を2021年7月から展開しています。日本財団海洋事業部の部長・中嶋竜生さんは「コロナ禍で子ども達がなかなか海に行けない、また、海への探求心や好奇心が失われているという状況があるので、家にも海を感じられているようにと始めたもの」と言います。

内容は、学習指導要領に沿った「国語・算数・理科・社会・生活・音楽・図画工作・体育」の8科目それぞれにオリジナル動画と学習レポートを掲載。例えば、理科の動画のひとつ「海のニンジャをさがせ!! おきなわの海」では、干潟での海の生き物の観察がテーマになっています。講師として登場している「しかたに自然案内」の鹿谷麻夕さんは「生き物を探す目をつくるというつもりで、海のニンジャを探せという内容にした。海の生き物は、暮らし方だったり餌のとり方だったり、生活の仕方そのものが私たち人間とは全く違う。そういったことを学ぶことが、広い意味での生物の多様性と地球の多様性を感じる入口になると思う」とコンセプトについて話します。そのため、鹿谷さんは「採集する前に観察して欲しい」と言います。「生き物がどういう生き方をしているのかという暮らしに着目すると、生き物を発見したというだけではないレポートになると思う」。

「おうちで学べる海の教室」では他にも、オリジナルの“海かるた”から山形県の庄内浜を学ぶ国語、福井県在住の流木アーティストによる図工など、地域の魅力を生かした様々な授業が展開されています。実際に学んだ子どもは「図工を観たら工作をやってみたくなった。一番学んだことが多かったのが海のニンジャを探せ!!で、海に行ったら生き物をすぐ捕まえたりしていたから、優しく触ったり、そっと見たりする方がいいと学んだ」と振り返っています。さらに、親も「ひとつひとつの切り口がユニークで面白くて、だから子どもも楽しみながらドンドン次の動画を観ていた印象だった。また、『今度動画に出てきた生き物を探してみよう』と話をしながら私も一緒に楽しんでた。コロナ禍では難しいが、観て終わりじゃなく自分もやってみよう体験に繋がる動画でとてもありがたい」と親子で楽しみながら学習できたと言います。

「おうちで学べる海の教室」は、今後もコンテンツを増やす予定で、今年度中に50本の動画と学習レポートを展開するそうです。日本財団の中嶋さんは「例えば、自由研究や学校の宿題のサポート教材としても活用してもらえればと思う」と語っています。

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1281				



子ども達の海離れを減らしたい「海のおもいで創造プロジェクト」～国土交通省から表彰された日本財団・海野光行が主導する「海と日本プロジェクト」～

「海のおもいで創造プロジェクト@鎌倉材木座」が2021年の夏に行われました。このイベントは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環です。

海と日本プロジェクトは、内閣府総合海洋政策本部、国土交通省海事局とともに2015年から開始。次世代を担う子どもや若者を中心に、様々な人が海への好奇心を持ち、行動を起こすムーブメントをつくることを目指しています。これまで「CHANGE FOR THE BLUE」での海洋ごみ対策から、海のおもいイベント、ヒラメを使った命の授業まで多くの取組みを実施。2020年までに13,000回以上のイベントを行い、900万人以上の人々が参加。また、賛同する地方自治体首長は630人にものぼります。その結果、海と日本プロジェクトの創設に関わり、現在も尽力中の日本財団の海野光行常務理事が、国土交通省が主催する『令和3年「海の日」海事関係功労者大臣表彰』を受賞しました。海野常務理事は今後について「次世代の子ども達に海体験をしてもらい、“海ごころ”をいかに子ども達の頭の中、心の中につけていけるかをさらに注力しながら様々な事業展開を図っていきたい」と語っています。

そんな中で行われたイベントが、「子どもとおでかけ情報サイト：いこよ・次世代価値コンソーシアム（NVC）」が企画・運営する「海のおもいで創造プロジェクト@鎌倉材木座」です。海のおもいで創造プロジェクト事務局の福島康太さんは「ひとりでも多くの子ども達に、海で楽しい思い出をつくってもらおう」とコンセプトについて語っています。その背景には、近年加速している子どもの海離れがあるそう。実際に、この日が人生初の海という子どももいました。子どもの海離れの要因について「子どもを海に連れていくという保護者の負担がある」と福島さんは言います。そこで、このイベントでは、学童施設と連携することで、多くの子ども達に海体験を提供しているのです。

プログラムは、まず海での歩き方だったり、ライフジャケットを着て浮かんだり海に慣れることからスタート。その後、ボードを使っての波乗りと段階的に海体験を実施しています。そのサポートをしているのは、ライフセーバーなど海のプロです。プロジェクトのプロデューサーでもある「WATER SAVVY」のマスターインストラクター林亮太さんは「子ども達にはイベントを通して、海遊びの第一歩をしっかりと学んでもらいたい。そのために私達が安全管理をしつつ、どういったところを怖いと感じるのか、逆に楽しいと感じるのかを見極め、子ども達のスキルに合わせてチャレンジできる環境をつくっている」と話しています。プログラムでは他にも、海のクイズを実施するなど様々な形で海体験を提供。参加した子ども達は「ボード遊びがジェットコースターみたいで楽しかった」と振り返っているように、海体験に大満足だったようです。

「海のおもいで創造プロジェクト」では今後、学童だけでなく塾なども連携、また、鎌倉以外の海でも実施したいと言います。そして、イベントによって「子ども達には海と自分との繋がりを感じられるようになってもらい、将来、自分起点で友達や家族などと海に行く機会をどんどんつくって欲しい」と海離れが減ることを福島さんは期待しています。

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1285				



未来のノーベル賞受賞者がいるかも！？～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」を受賞したのは？～

日本財団と環境省が共同実施している「海ごみゼロアワード」の表彰式が、2021年10月6日に行われた。海ごみゼロアワードは、海洋ごみ対策において国内の優れた取り組みを発掘し、広く発信することが目的となっている。3度目の開催となった今年度は276件の応募があり、優秀な取り組みが数多くあったという。審査員のひとりである東京大学 大気海洋研究所の津田敦教授は「地球環境問題を扱った真鍋博士がノーベル賞を受賞したが、今回の受賞者、または応募者の中から10年後20年後30年後のノーベル賞受賞者が出ると確信している」と話した。

栄えある最優秀賞に選ばれたのは、「Blue Earth Project」。このプロジェクトは、全国各地の女子高生・女子大生による活動で、自分たちで企画・運営まで行うイベントで海洋ごみ問題を分かりやすく伝えたり、飲食店に自らプレゼンしに行き、オリジナルキャンペーンを行ったりしている。代表の今津紅杏さんは「女子高生や女子大生のような身近な相手から社会問題を伝えると、気軽に受けとってもらえると思っている。今後も環境問題を発信していきたい」と抱負を語った。また、プロジェクトの発端である松蔭高校でBlue Earth Projectを担当している谷口理教諭は「今後のターゲットは2025年の大阪万博。ここで全国の女子高生・女子大生がタッグを組んで、世界に向かって発信できるようにしたい」と話す。

最優秀賞の他にも、環境大臣賞や日本財団賞、AEPW賞など、計14の取り組みが表彰され、活動奨励金が授与された。日本財団の常務理事・海野光行氏は「今回目立ったのは若者たちのアクション。若者が海の問題に知見を広げてくれているのはとても有難い。来年以降も海ごみゼロアワードを継続し、さらに、受賞者同士のコラボレーションといった横展開ができるような場も加えていきたい」と今後の展望を語った。

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1290				



半年後には実証実験！無人運航船を児童が体験～ 無人運航船の実用化を目指す「MEGURI2040プロ ジェクト」が特別授業～

無人運航船を通じて未来の地球と海を考える特別授業が、千葉市立海浜打瀬小学校の5年生を対象に行われました。この授業は、日本財団が支援し、無人運航船の実用化を目指している「MEGURI2040プロジェクト」の一環として実施されたものです。

無人運航船とは、船内のほぼ全ての作業をAIなどが担当し、無人で運航する船のこと。実現すると、人手不足などの問題の解決策となり、国内で年間1兆円ほどの経済効果が期待できるといいます。現在、2025年の実用化、2040年には国内で運航する船の半分を無人運航船にすることを目指し、開発や取組みを進めています。

その取組みのひとつが特別授業です。

日本財団 海洋事業部 海洋船舶チーム チームリーダーの桔梗哲也さんは、特別授業の目的について「実用化を考えた時に、無人運航という聞いたこともないような技術を使ってくれるかという、安全性などで不安もあると思う。そこで、小学生を対象に知ってもらうことで親しみを持ってもらいたい」と話しています。授業では、MEGURI2040プロジェクトが支援するコンソーシアム（複数の民間企業体）のひとつ「DFFAS」チームの陸上支援センターにて、実際に無人運航をコントロールするシステムを見学。参加した児童は、開発中のシミュレーターで操縦体験をしたり、無人運航に使う設備を見学しました。また、DFFASチームに参加している「ウェザーニューズ」の会社見学も実施。ウェザーニューズは気象情報会社で、一般的な天気予報だけでなく、スポーツに関する気象、船に関わる航海気象や運航実績データまで、様々な情報を提供しています。会社見学では、オフィスを巡りながら、「世界の交通運輸」や「生活と気象情報の関わり」をクイズ形式でレクチャーしました。特別授業を終えた児童は「思ったより機械やコンピューターがあってスゴイ驚いた」、「無人運航船が実用化されたら、ちょっと怖い気持ちもあるが乗ってみたい」と話しているように、楽しんで学べたようです。

無人運航船の今後について桔梗さんは「あと半年ほどで実証実験が始まるが、子ども達にもMEGURI2040プロジェクトや無人運航船を面白い、すごいと思ってもらえる取組みをやっていきたい」と語っています。

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1294				



クイズで海産物GET！海プロ市～食から海を知る「海のごちそうフェスティバル」～

都内で「海プロ市」が、2021年10月16日に開催されました。このイベントは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として行われた「海のごちそうフェスティバル」のステージプログラムのひとつです。海のごちそうフェスティバルは、「おいしい、以上に知ってほしい海がある。」をテーマに、食から海のことを知ってもらおうというもので、日本全国の海にまつわる特産物の販売やステージプログラムなどが行われました。

海プロ市は、静岡県、島根県、熊本県の漁港と中継を繋ぎ、各港から獲れたての海産物をレポート。さらに、海と食のクイズが出題され、都内会場の参加者が正解すると、各地の海産物がプレゼントされるという内容です。例えば、熊本県から出題されたクイズのひとつが「タチウオの特徴といえば、体の表面の銀色のキラキラ。このキラキラ成分は何に使われている？」というもの。この問題には小学生が「化粧品」と答えて見事正解。その他のクイズでも大盛り上がりとなり、「海プロ市」の名のごとく、まるで市場のセリのように参加者から手が挙がる状態に。参加した子どもは、「クイズに当たって面白かったし、魚のことが色々知れてよかった」と大満足していました。日本財団の常務理事・海野光行さんは、コンセプトについて「消費者には、誰がどういった想いで魚を獲っていて、どういった風に送られてくるかの過程を実感してもらいながら最後に食べてもらう。そうすることで海に対する想いをはせて欲しいと思い、企画した」と言います。

海洋問題が深刻化する中、次世代に海の恵みを繋ぐためには、身近な「食」がキーワードなのかもしれません。

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1298				



鯛の旬は今！？食から海を知るフェス～ごちそうフェスティバルで発表された「海と食」に関する意識調査～

都内で「海のごちそうフェスティバル」が、2021年10月15日と16日に開催されました。このイベントは、日本財団が推進する海と日本プロジェクトの一環で、日本財団の常務理事・海野光行さんは「海と日本プロジェクトのテーマの中には、『海を味わう』というものがある。海のごちそうフェスティバルは、食のこを通じて海のこを深く知ってもらおうという企画」とコンセプトについて話しています。会場では、日本全国の海にまつわる特産物の販売やステージイベントなどが行われました。

オープニングステージイベントでは、「海と食」に関する意識調査の結果を発表。この調査は、日本人が「食を入口とした海」に対して、どのような意識や行動をしているかを明らかにすることを目的に実施されました。その結果、魚の選び方など「食」に直接関係することに関心が高い一方で、食文化や漁師といった「海と食の背景」には関心が低いことなどが判明。海野常務は「この調査を通じて、『おいしい、以上に知ってほしい海』への興味関心を高めることが必要だとわかった」とまとめました。

また、服部栄養専門学校の校長・服部幸應さんと岸壁幼魚採集家で「令和のお魚王子」として鈴木香里武さんが登壇し、食から海の課題を考えるトークセッションも実施。服部先生は「鯛が一番おいしいのは秋から冬にかけて。その時が卵を産むために一生懸命おいしいものを食べるから」と魚の旬や魚食の歴史などについて話しました。そして、鈴木さんは魚を知ることの大切さを指摘し、「小学生に魚の絵を描いてもらうと、切り身を描く子どもがいて、切り身が海を泳いでいると、本当に信じている子どもが年々増えている。周りの大人が、生き物としての魚と触れ合わせる機会をつくり、食とセットにしてあげるのが大切だと思う」と海の課題解決のための提案をしました。

今後、海と日本プロジェクトでは、「おいしい」を入口に、海と日本人をつなげていきたいと言います。海野常務は「魚をちゃんと食べて欲しい。そして、食べる時にはその背景も、ある程度把握した上で食べて欲しい」との想いを語っています。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1301				



灯台がイケメン化！人気声優による声劇～「燈の守り人」プロジェクト～

「灯台記念日」の2021年11月1日、灯台を題材にした新たなエンタメ「燈の守り人（あかりのもりびと）」プロジェクトでのイベントが行われました。燈の守り人は、実在の灯台を擬人化するプロジェクトで、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環です。

日本には3000を超える灯台がありますが、GPSの発達・普及により、道標としての役割を終えつつあります。一方で、日本の近代化を象徴する貴重な文化遺産という側面もあり、観光スポットになっています。しかし、日本財団の常務理事・海野光行さんは「観光スポットとして灯台を捉えた場合、異分野とのコラボレーションが少し足りない。特に漫画やアニメなどのエンターテインメントとのコラボが足りない」という課題があると言います。

そこで、全国88の灯台をイケメンキャラクター化する「燈の守り人」プロジェクトが2020年から開始されました。そして、灯台記念日のこの日は、置鮎龍太郎さんなどの有名声優によるライブ朗読劇の「声劇」と「トークイベント」を実施。声劇に先立ち行われたトークイベントでは、灯台の有識者として登壇した海野さんが先生となり、灯台のことを出演声優にレクチャーしました。その後、灯台建設に命を捧げた男たちの物語「燈の守り人 声劇 明治開国編」がスタジオからライブ配信されました。

プロジェクトの今後について、燈の守り人製作委員会の総合プロデューサー・波房克典さんは「『幻想夜話（げんそうやわ）』というコンテンツを11月15日から隔週で配信する予定。これは、それぞれの灯台が100年余りで見えてきたであろう景色や記憶を、オリジナル脚本に仕立てて、88人の有名声優が灯台を演じる音声コンテンツ」と話しています。また、縦読みフルカラーでの漫画も2022年の始め頃から連載されると言います。「燈の守り人」プロジェクトについて海野さんは「灯台は一般の方々から見ると、存在は知っていても身近な存在ではないと思う。そこで、道標の役割を声優に果たしてもらい、灯台の新しい魅力をエンタメとのコラボレーションから若い人たちに伝えたい」と意気込みを語っています。

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1304				



熱源サミットの地・島根での海と学び～海を未来へと引き継ぐ者たち④「海と日本プロジェクトinしまね」と「熱源・武田祐子」～

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクト in しまね」(島根県)で特に力を入れているのが、「子ども達に向けた少しレベルの高い教育」だと言います。海と日本プロジェクト in しまねのプロデューサー・土江基行さんは「オリジナルイベントなど様々な活動の中で、学校で体験できないような質の高い教育のカリキュラムを子ども達に提供している」と話します。今年7月に行われた隠岐の島でのオリジナルイベントでは、マリンレジャーだけでなく、特産のイワガキをテーマに、地域の経済や海洋環境について学ぶ体験学習を実施。その他にも、水槽の中に島根の海を作るワークショップや、水揚げされた魚を子ども達自らがさばくなど、様々な学びを提供しています。中でも注力しているのが、カリキュラムづくりで、「環境問題や水産業界などの専門家、そして、教えるという意味で教育のプロがコラボレーションしている」と言います。

海プロinしまねに教育のプロとして協力しているのが、大田市教育委員会で教育長を務める武田祐子さんです。「2018年から海と日本プロジェクトinしまねの教育アドバイザーとして、山陰の子ども達と一緒に海洋教育の活動に参加し、子ども達の学びをサポートする仕事をしている」と話す武田さんによると、プロジェクトの中には私たちが生活する上で欠かせない「学びのサイクル」が埋め込まれていると言います。「1つ目は『海に親しむ』ということから、相手と良い関係を結ぶ学びが。2つ目は『海の生き物や課題を掴む』ということから、相手をより深く知るという学びが。3つ目は『自分で考えて行動する』。これらは、大人も子どもも人生で出会う様々な困難を乗り越えていくために使える非常に重要なサイクルだと思う」と語っています。そして、武田さんが子ども達をサポートする上で重視しているのが、「ふるさとの視点」です。「例えば、私が住んでいる大田市には、世界遺産の石見銀山がある。その歴史を辿っていくと、海の果たす役割が非常に大きいことに気づく。このように、自分たちのふるさとの視点から海を学んでいくと、海と人々との関わりや想いが色濃くて魅力的なプログラムになる」と武田さんは語っています。

そんな海の学びに力を入れている武田さんは、2021年11月11日と12日に出雲市で開催される「熱源サミット」に参加予定です。熱源サミットとは、海への「熱い」想いを持ち、社会を変える力の「源」となる人材である「熱源」が、全国から集結するイベント。そして、全国の熱源が取り組みを共有し、新たなムーブメントを起こそうというのが目的となっています。武田さんは熱源サミットを心待ちにしているそうで、「熱源の皆さんと出会うことが何よりも貴重な経験だと思う。また、熱源サミットに私達が目指す海のヒントがあると思う。そのヒントを持ち帰って形にしていきたい」と話しています。また、海プロinしまねも熱源サミットを活動に繋げていきたいと言います。土江さんは「今、出雲市内が熱源の皆さんの歓迎モードになっている。熱源サミットは海と日本プロジェクトの裾野の広がりに繋がっていくチャンスだと思っているので、活動の中に生かしていきたい」と語っています。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1308				



「3D×海洋研究」でイノベーションを！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」でのトークセッションinワコムコネクテッド・インク2021～

ワコムによる展示会「コネクテッド・インク2021」が、都内で11月16日と17日に行われました。「コネクテッド・インク2021」は、アート、人間表現、学びと、それらを支えるテクノロジーの新しい方向性を模索するイベントで、様々な企業がブースを出展したほか、世界4都市の会場とオンラインで繋がりました。

イベントではトークセッションも行われ、そのひとつが「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」についてです。このプロジェクトは、最新の3D技術を活用した海洋生物の研究を通じて、将来さまざまな分野で活躍できる人材の育成が目的で、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として今年9月に開校しました。トークセッションには、日本財団の常務理事・海野光行さんと3Dスーパーサイエンスプロジェクトのプロデューサーで講師も務める吉本大輝さんが登壇。海野常務理事は「今、日本では若者の海離れが進んでいる。私達が実施した海と日本人の調査では、海に親しみをあまり感じていない10代が4割以上いると。そこで海と日本プロジェクトでは、子どもの海洋教育に重点を置いて進めている」と海洋の観点からプロジェクトの背景について説明しました。一方で、吉本さんは「プログラミング教育の次に来るのが3D教育。海外では進められている教育分野なので日本でも機運が高まっている。また、3D技術はすでに海洋生物の研究に使われている」と、専門とする3Dの観点からプロジェクトの背景について話しました。その他にも、学んでいる生徒や3Dモデリングの実演動画、フルカラー3Dプリンターで出力したクジラの玉骨標本などを紹介しました。

3Dと海洋研究との融合に期待していることについて、海野常務理事は「イノベーションを起こすには異分野との融合が大事。3Dプリンターといった最先端技術と海洋の研究を結びつけ、新しい発見を生み出せたらと思っている」と話し、吉本さんは「研究など様々な分野で3D技術が使えることをもっと知って欲しい」と語っています。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1312				



子ども達がサメを手配！？～「海の手配師」のお仕事を体験～

「海のお仕事体験プロジェクト」の仕事体験イベントが、11月13日に静岡県沼津市で行われました。このプロジェクトは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」一環で、子ども達に海のお仕事を通じて、海の大切さや問題などを発見してもらうことが目的。全国各地で色々な体験イベントを実施しています。

この日 行われたのは「海の手配師」というお仕事体験です。「世界中の水族館や研究機関から依頼を受けて、生物を探し出して捕獲し、輸送して納入するというのが海の手配師という仕事」と話すのは、講師を務めた有限会社ブルーコーナーの代表取締役・石垣幸二さんです。石垣さんは、世界230の水族館に1,000種類以上の生き物を納入する「海の手配師」。これほどの種類を扱う人は海外にもいないといいます。今回のイベントは、子ども達が海の手配師となり、実際の仕事内容を追体験するというもの。最初の依頼は「カクレマノミ」で、子ども達はレクチャーを受けながら、水槽にいるカクレマノミの捕獲から、輸送するための袋詰め「パッキング」まで行いました。その後も、チンアナゴや深海生物のタカアシガニなどの手配を体験。そして、最後には、なんと巨大な水槽にいるネムリブカというサメを手配することに。子ども達は石垣さん指導のもと、協力して活魚トラックまで運びました。体験を終えた子ども達は「なかなか出来ない体験ができて楽しかった」、「もっと色々な魚のことを知りたいと思った」と話しています。

石垣さんは海の手配師というお仕事体験を通して、子ども達に伝えたいことがあったと言います。「水族館で見ていた魚は、獲る人がいて運ぶ人がいて展示する人がいる。職業というのは、このように色々な人の協力のもとに成り立っているということを学んで欲しかった」。また、今後については「ずっとやってきた海の手配師という仕事を、次の世代に伝える時代になってきたと思っている。好きなことを一途にやってきたものをダイレクトに子ども達に伝えたいという気持ちがあるので、またこういう機会をもらえたらと思う」と展望を語っています。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1314				



カニを調べて2190日～「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」で最優秀賞を受賞した“あいおいカニカニブラザーズ”～

「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」が、2021年10月3日に都内で初開催されました。海のキッズサポーターとは、未来に向かって海を守っていく活動をしている全国の小学4年生から中学生を認定したもので、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、全国から厳選された優秀なキッズが活動を発表。東京都の鈴木瑛梨花さんは「海洋プラスチックの80%以上が陸から来たものです。プラごみを海に流してしまったのは、陸でプラスチックを使った私であり、あなたなのです。私にもあなたにも出来ることがあります」と、世界で問題となっている「海洋プラスチック問題」というテーマでプレゼン。そのほかにも、「サケの一生と食物連鎖」や「おいしい海の生き物が育つ錦江湾の魅力」など、子ども達が様々な内容を発表しました。

そして、最優秀賞に選ばれたのは、「俺たちとカニの2190日～Crab Kingdom～」というカニの研究を発表した「あいおいカニカニブラザーズ」こと大角一尋さん、涼斗さん兄弟です。兵庫県に住む中学生の兄弟がカニの研究を始めたのは2015年からで、身近な相生湾周辺に個性的でかつこいカニが棲んでいることを知り、観察・研究し続けてきました。研究は細部に渡り、例えば、「コメツキガニは食事の際に砂団子をつくるが、1分間に何個つくるのか。また、その団子を切るのは右手なのか左手なのか」と話しているように「カニの利き手」を調べたほか、「カニの嫌いな食べ物を探す実験」や「カニに毛穴はあるのか」など、気になったことを徹底解明しています。その結果、今までに79種類のカニを発見。その中には、兵庫県で初発見となったフジテガニもいます。そのフジテガニなどの調査結果は日本甲殻類学会で発表し、特別奨励賞を受賞しました。さらに、これまでに調べた結果は、1冊の「カニ大百科」にまとめています。

プレゼン大会では、そういった活動内容に加え、「海好きの仲間を増やそうと活動を始め、干潟の観察会で講師を担当し、第2の僕たちを育てています」と、次なるアクションを起こしていることも発表。「カニへの情熱が周りの人達を巻き込む可能性を秘めている」と、審査員は最優秀賞に選ばれた理由を話しています。審査委員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行さんは、海のキッズサポーターの今後について「子ども達の周りを巻き込む力を伸ばしてあげたい。そして、大人になった時に、ワールドレベルでその力を使ってもらいたいという意図があつてのプロジェクトだと思っている。そのため、今後もたくさんの子どもの参加してもらいたい」と言います。そして、カニカニブラザーズは将来について「カニ大百科を発売すること、カニの研究者になることが夢」と話しています。

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1318				



ごみ拾い日本一に輝いた高校生は！？～全国30エリアから集結『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2021』の決勝大会～

高校生ごみ拾い日本一を決める『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2021』の決勝大会が12月26日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技です。スポGOMI甲子園は高校生による全国大会で、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催されています。この日は、北は北海道、南は沖縄県まで地区予選を勝ち抜いた全国30エリアの代表チーム、そして、昨年リモート部門で優勝したチームの計31チームが出場しました。

「チェンジ・フォー・ザ・ブルー！」の掛け声とともに、ごみ拾いチャンピオンを決める戦いがスタート。スポGOMIは、3人1組のチームで、60分間ごみを拾い、ポイントを競い合うもの。そのポイントはごみの量と質から算出されます。そのため、体力だけではなく、どのごみを重視して拾うかといった知力も必要になります。さらに、この大会ならではの特徴が「オリジナルアイテム」です。自作したごみ拾いグッズがポイントに加算されるため、多くのチームが工夫を凝らしたごみ箱やトングなどをつくり、効率的にごみ拾いを行いました。

激戦の結果、オリジナルアイテム賞を受賞したのは、鹿児島県代表の「あいちゃん劇団」です。自作したオリジナルアイテムは、いらなくなった洋服を再利用してつくったごみ袋で、クラスメイトから洋服を提供してもらったりしたそうです。また、このチームの特徴がコスプレです。介護福祉士を目指している彼女たちは、普段から小学校などで介護福祉をテーマに劇を披露していて、福祉の素晴らしさを伝えるために、その衣装で大会に臨んだと言います。日本財団の海洋事業部 海洋環境チームリーダー・宇田川貴康さんは「鹿児島のチームのようにメッセージが込められたアイテムなど、全体的にオリジナルアイテムがレベルアップしていた」と話しています。そして、あいちゃん劇団は今後の活動について「私達が通う龍桜高校では定期的に全校ボランティアという地域でのごみ拾いや学校をキレイにする行事があるので、今日の経験を後輩たちに繋ぎたい」と語りました。

そして、栄えある優勝に輝いたのは、愛媛県代表の「BIG WESTペーカリー」です。このチームは、10kg以上ものごみを拾い、唯一2000を超えるポイントを獲得しました。「自動販売機の横に多くのビンや缶が不法投棄されていて、それを重点的に集めた」と勝因について語っています。今後については「スポGOMI甲子園でのごみ拾いだけでなく、日々頃からごみを出さない、道端にあるごみを拾うといった身近な環境も大切にしていきたい」と話しています。

今までの最大規模となったスポGOMI甲子園について、宇田川さんは「この取組みが海洋プラスチックごみ問題を考えるキッカケになって欲しい」と言います。また、日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんは「スポGOMI甲子園は、自分たちの住んでいるエリアのごみと向き合う唯一のキッカケだと思っている。その中で、競い合うということがコミュニケーションが生まれるキッカケになっているので、みんなで海洋ごみ問題に対してアクションを起こそうという活動に繋がればと思う」と話しています。

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1322				



スポーツごみ拾いをアニメ化～巨匠が手掛け、人気声優が演じる「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」～

スポGOMIをテーマに制作されたアニメ「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」の完成披露試写会が、都内で3月7日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技。近年は日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として、高校生ごみ拾い日本一を決める「スポGOMI甲子園」が開催されるなど大きな広がりを見せています。今回、世界初の試みとなったスポGOMIのアニメ化の意図について、日本財団の海野光行常務理事は「アニメという若者や子ども達が入りやすい形にして、海洋ごみ問題を一步掘り下げられる、アクションに移せるようなモデルケースにできないかと考えた」と話しています。

アニメの舞台は、スポGOMIが世界中で大人気スポーツとなっている近未来で、物語は高校生が清掃活動に取り組みながら、成長を遂げていく青春ストーリーとなっています。総監督には「タッチ」などの青春アニメを手掛けてきた杉井ギズプロを迎え、主演を人気俳優の柄本時生が務めたほか、照井春佳、井上麻里奈、大空直美といった人気声優がキャラクターを演じました。さらには、日本財団の笹川陽平会長も、この作品で声優に初挑戦。試写会に登壇した井上さんは「ごみ拾いは楽しいものなんだと、この作品を通して私達も知ることができたので、色んな方に知ってもらいたい」と語りました。

アニメ化について、スポGOMIの創始者である一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブの代表理事・馬見塚健一さんは「中学生・小学生に向けての活動を広げていきたいと思っていたので、アニメを使ってキッカケをどんどんつっていききたい」と言います。また、海野常務理事も「スポGOMIは世界で受け入れられる競技・コンテンツだと思う。今はアニメの世界が先行しているが、リアルな世界でも実現できるように馬見塚さんと色んな策を練っていききたい」と展望を語っています。

アニメ「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」は、プラスチックの新法が施行される4月1日からアニメタイムズ、dTV、dアニメストア、U-NEXT、アニメ放題、ABEMAほかにて配信される予定です。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1326				



スシローのお店が教室に！～子ども達に海と食について考えてもらう「熱源熱中授業」～

スシロー東静岡店にて「熱源熱中授業」が3月31日に行われました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」と回転寿司最大手のスシローがタッグを組み、全国各地で実施。毎回スシローのお店を教室として、地域の海を知りつくした「熱源先生」とスシローの社員が務める「スシロー先生」というふたりの先生が登場し、子ども達に食と海について考えてもらう取組みです。“熱源”とは、ふるさとの海を知り尽くし、豊かで美しい海を未来へ繋げる“熱い”想いをもち、社会を変えるムーブメントの“源”となる人材のことで、全国で約60名の熱源が活動しています。

この日の1限目は、熱源先生として、ウミガメの保護活動などを行っているNPO法人サンクチュアリーヌピーオーの理事長・馬塚丈司さんが講義。ウミガメの生態だけでなく、「ウミガメの保護活動で学んだことは、海岸や海の中がプラスチックで汚れているということ。山、川、平野にあるもの全てが海に行く。なぜなら海が最も低いところにあるから。海はごみ箱みたいになっている。だからビーチクリーンアップを始めた」と子ども達に伝えたように、海洋ごみ問題についても講義しました。海洋ごみ問題では、水槽を使い、海岸の砂からマイクロプラスチックを取り出す方法を実施。馬塚さんは「大人はマイクロプラスチックは小さすぎて拾えないと思っている。だから最初から拾おうと思っていない。しかし、子ども達には拾えるものだと思ってほしい」と実験の意図を話しています。

2限目はスシロー先生として志摩亮太さんが講義。スシローの成り立ちや現在の店舗数、人気ネタであるマグロやハマチについて教えました。さらに、「地球環境や海洋ごみなど色々な問題から天然の魚が獲れなくなってしまうかもしれない。そこで、美味しい魚やお寿司を食べ続けてもらうために養殖にもスシローは力を入れている」と、スシローで取り組んでいるハマチの養殖からお寿司になるまでの過程も講義。その後、ハマチの握り寿司を子ども達に食べてもらいました。参加した子ども達は「ハマチが養殖でどのように育てているかなどが知れて、とても楽しくて面白かった」、「今年海に行ったらゴミを拾いたい」と授業の感想を語っています。そして、ふたりの先生は子ども達に、授業をいかして欲しいと考えていて、馬塚さんは「自分たちが大人になった時、どんな社会が良いかというのを認識してもらえたら」と話しています。志摩さんは「海を守らないと将来お寿司を食べられなくなるかもしれない。海を守れるように学んだことをしっかりいかして欲しい」と話しています。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1328				



直木賞作家や絶景Pらが灯台を掘り下げる～灯台の新たな価値創造を語り考える「海と灯台フォーラム2021」～

東京・代官山の蔦屋書店で「海と灯台フォーラム2021」が、2022年3月14日に開催されました。このイベントは、「海と灯台プロジェクト」が1年間の活動の集大成として実施。日本には3000を超える灯台がありますが、GPSの発達・普及により道標としての役割を終えつつあります。一方で、日本の近代化を象徴する貴重な文化遺産でもあります。そこで、海と灯台プロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台の歴史や文化的価値などを掘り起こし、地域活性化につなげようと活動しています。

フォーラムでは、灯台の魅力や利活用などについて語り合うトークセッションが行われ、直木賞作家の安部龍太郎さん、「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」プロデューサーの詩歩さん、BSテレビ東京の番組「中村獅童の灯台見聞録」に出演したフリーアナウンサーの笠井信輔さんと灯台研究の第一人者で東京工業大学の名誉教授・藤岡洋保さんなど、様々な有識者たちが登壇。そのひとりで、様々なカルチャーコラボを行っているBEAMS執行役員の土井地博さんは「灯台は文化の発信の場所でもある。3000というローカリズムの個性を出しながら、この時代にあえて自分を見つめ直せる場所としての灯台にしてみてもは。例えば、多くの本が所蔵されているとか、茶の道のような形でお茶を飲めるだとか」と提言しました。

また、トークセッションだけではなく、長崎県の伊王島灯台、石川県の祿剛埼灯台と中継を繋ぎ、灯台の新たな利活用が紹介されました。そのほかにも、海上保安庁から民間が灯台の維持管理などを行えるようになる「航路標識協力団体制度」について説明。海上保安庁 交通部 企画課長の江原一太郎さんは「今年2月に36の灯台に対して26の協力団体を指定した。2022年度も募集したいと考えていて、今後その準備を進めていきたい」と話しています。フォーラムの最後には、日本財団の常務理事・海野光行さんから今後の「海と灯台プロジェクト」の取組みについて発表。海と灯台サミットの開催や映像コンテンツの制作などのほか、5月からは灯台利活用モデル支援プロジェクトを新たに開始する予定だと言います。取組みについて海野常務理事は「若い人達など灯台を知らない方々にも、SNSでの発信やショートムービーを使ってアピールしていきたい」と話しています。

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1330				



ウニ愛やクラゲ愛が受賞の決め手に～マリンチャレンジプログラム2021全国大会～

「マリンチャレンジプログラム2021全国大会～海と日本PROJECT～」が、2022年3月13日に都内で行われました。このプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバネスが2017年から毎年実施。海洋分野での課題を見つけ、人と海との未来を創り出す仲間づくりのため、海・水産分野・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

この日は、地方大会から選抜された15チームが、1年間の研究の集大成をプレゼン。白亜紀に生息していた水生生物・テトラポドフィスをロボットで復元し蛇と足の関係を研究、藻類からアレルギー反応が生じない安全なクレヨンをつくる研究、魚がプラスチックを誤飲してしまう原因の調査・研究など、様々な成果が発表されました。

今大会で表彰されたのは4つで、その1つが日本財団賞に選ばれた桐光学園中学校・高等学校による「ムチンの増加・抽出の研究～ミズクラゲからの贈り物～」です。クラゲに含まれる保湿や抗菌などの効果があるムチンという成分に着目。従来の抽出方法ではクラゲを殺す必要があったため、クラゲに負担がかからないように生きたまま抽出しようと考えたと言います。そこで、ムチンを分泌する仕組みから研究し、エサなど色々な刺激を与える実験を行いました。研究代表者の橋本沙和さんは「どうい刺激だったらクラゲに負担がかからないのかと考えて実施したのがこだわったポイント」と話します。今後については「大学や研究機関に入って生涯クラゲの研究を続けていきたい」と将来について語っています。

そして、最優秀賞に選ばれたのが、熊本県立済々高等高等学校による「放射相称であるウニ類の体の方向性とその要因」です。「ウニの移動」に疑問を持ち、研究した結果、海水の出入り口である多孔板がウニの移動方向を決めるベースだと発見しました。「誰もやったことがない研究方法を、試行錯誤しながら組み立てていくのが大変だった。動きなんか調べてどうなるの？と思われることが多いが、ウニの動きの面白さをわかってもらえたことが嬉しかった。また、そこが最優秀賞に繋がったと思う」と振り返っています。審査員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行氏は「審査の中でウニ愛とかクラゲ愛という表現をしていたが、彼・彼女らがその分野の第一人者になって欲しいという想いを込めて選考した」と評価ポイントについて話しています。また、今年で5年目となったマリンチャレンジプログラムについて「一回マリンチャレンジプログラムで海のことを学んでいると、もし別の研究や職業に就いたとしても、海のことを必ず頭の片隅に残っている。そういうキッカケとなる場で研究に精進してもらえたのは嬉しい」と総括しています。

3 ヤフー記事掲載

※一部抜粋

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	ライフ	海を守る卵たちの全国大会～マリンチャレンジプログラム2020～
2	全国	ライフ	水素社会と究極のエコシップ～経済効果は2兆円以上に…ゼロエミッション船を推進するシンポ
3	全国	ライフ	人気タレントがライフジャケットをオシャレに！～「海のそなえ2021オーシャンセーフティファッションショー」～
4	全国	ライフ	クイズイベントの司会は学校の先生～クイズ王・古川洋平プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」の新たなる挑戦～
5	全国	ライフ	小泉環境相も使用！廃漁網をアップサイクルした鞆～ALLIANCE FOR THE BLUEが取り組んできた廃棄漁網の活用～
6	全国	ライフ	宿題にも使える「海×科目」を配信～動画とレポートで学習「おうちで学べる海の教室」～
7	全国	ライフ	子ども達の海離れを減らしたい「海のおもいで創造プロジェクト」～国土交通省から表彰された日本財団・海野光行が主導する「海と日本プロジェクト」～
8	全国	ライフ	未来のノーベル賞受賞者がいるかも！？～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」を受賞したのは？～
9	全国	ライフ	半年後には実証実験！無人運航船を児童が体験～無人運航船の実用化を目指す「MEGURI2040プロジェクト」が特別授業～
10	全国	ライフ	クイズで海産物GET！海プロ市～食から海を知る「海のごちそうフェスティバル」～
11	全国	ライフ	鯛の旬は今！？食から海を知るフェス～ごちそうフェスティバルで発表された「海と食」に関する意識調査～
12	全国	ライフ	灯台がイケメン化！人気声優による声劇～「燈の守り人」プロジェクト～
13	島根県	ライフ	熱源サミットの地・島根での海と学び～海を未来へと引き継ぐ者たち④「海と日本プロジェクトinしまね」と「熱源・武田祐子」～
14	全国	ライフ	「3D×海洋研究」でイノベーションを！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」でのトークセッションinワコムコネクテッド・インク2021～
15	全国	ライフ	子ども達がサメを手配！？～「海の手配師」のお仕事を体験～
16	全国	ライフ	カニを調べて2190日～「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」で最優秀賞を受賞した“あいおいカニカニブラザーズ”～
17	全国	ライフ	ごみ拾い日本一に輝いた高校生は！？～全国30エリアから集結『日本財団「海と日本プロジェクト」 スポGOMI甲子園2021』の決勝大会～
18	全国	ライフ	スポーツごみ拾いをアニメ化～巨匠が手掛け、人気声優が演じる「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e6f2d4106fdf582596371447e3545bd5485c49a6				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に**新規取得**
ログイン 🔥 [最大50%OFF] おトククーポン配布中



トップ | 速報 | ライブ | 個人 | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有
 主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

海を守る卵たちの全国大会～マリンチャレンジプログラム2020～

4/17(土) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

「マリンチャレンジプログラム2020全国大会～海と日本PROJECT～」が、2021年3月7日に行われました。マリンチャレンジプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバナスが2017年から毎年実施。海洋分野での課題を見つけ、人と海との未来を創り出す仲間づくりのため、海・水産分野・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するため、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/402423856e75239bd63556a8033e02dc5106d79d				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 最大95%オフ、お得なZOZOセール開催中

キーワードを入力

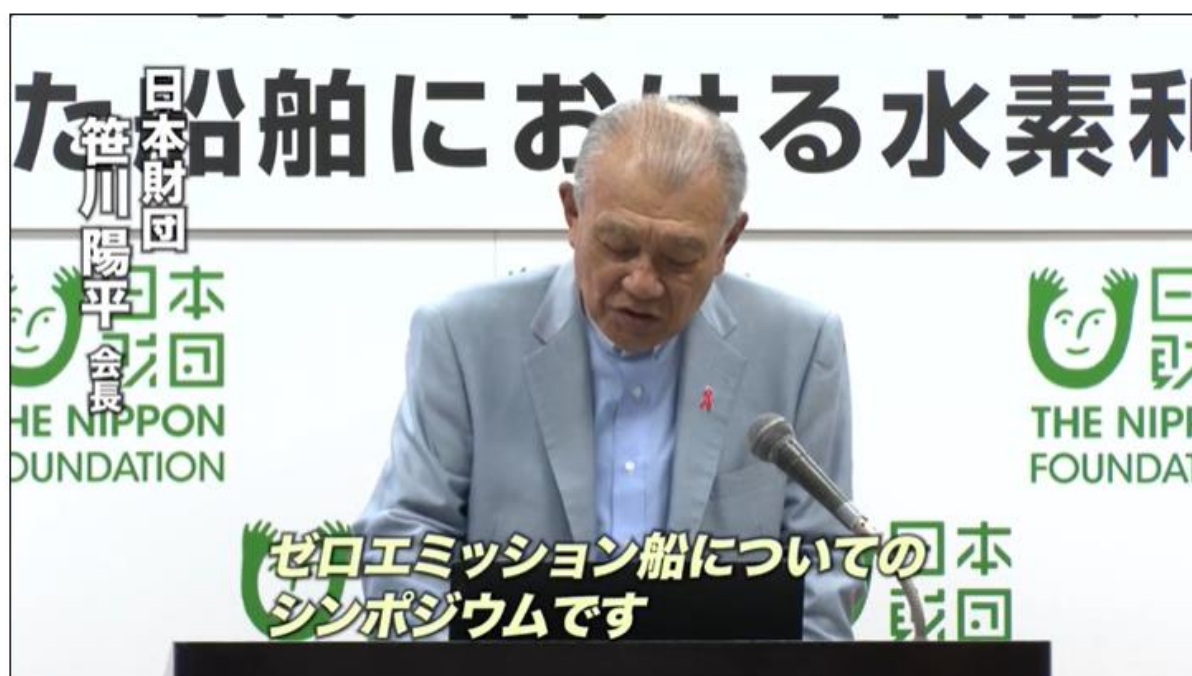


トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

水素社会と究極のエコシップ～経済効果は2兆円以上に…ゼロエミッション船を推進するシンポ～

5/23(日) 12:00 配信 2



日本財団「海と日本プロジェクト」



日本財団は、ゼロエミッション船を推進するシンポジウムを、2021年5月18日に開催した。ゼロエミッションとは、二酸化炭素を排出 (emission) しない (zero) 技術のこと。日本では、菅義偉首相が2020年にカーボンニュートラルを宣言し、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すことが発表されている。その実現に向けた取り組みの一つとして注目されているのが、「水素エネルギー」。水素は酸素と反応させると電気

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/065079248386da39be85f85af9a63762d4170b4e				


ニュース IDでもっと便利に**新規取得**
ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

人気タレントがライフジャケットをオシャレに！～「海のそなえ2021オーシャンセーフティファッションショー」～

7/25(日) 12:00 配信   0



**ライフジャケットなどのアイテムを使った
オシャレなコーディネート提案する**

日本財団「海と日本プロジェクト」

横浜クイーンズスクエアにて「海のそなえ2021 オーシャンセーフティファッションショー」が、7月10日に開催されました。このイベントは「海を楽しく、安全に」をテーマに、ライフジャケットなどのアイテムを使ったオシャレなコーディネート提案するファッションショーで、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施されました。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/27081823e1687d90cc599d2bb5eb8a1632c5de7b				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん



トップ | 速報 | ライブ | 個人 | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

クイズイベントの司会は学校の先生～クイズ王・古川洋平プロデューサー「子ども海のクイズ王プロジェクト」の新たなる挑戦～

8/1(日) 12:00 配信   1



日本財団「海と日本プロジェクト」

「子ども海のクイズ王プロジェクト」が、目黒区立五本木小学校で7月9日に開催されました。このプロジェクトでは、海洋問題をテーマに、小学生が参加できるクイズ大会イベントを2020年から全国で実施しています。イベントの最中、盛り上がる子ども達のそばで、ひとり真剣な眼差しで見つめ、メモを取る人がいました。東京学芸大学附属世田谷小

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2f129a5fe6a08ec18fad257a77a6f3dd6a9eeefc				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 🛒 日曜日はふるさと納税がおトク


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

小泉環境相も使用！廃漁網をアップサイクルした靴〜ALLIANCE FOR THE BLUEが取り組んできた廃棄漁網の活用〜

2021/8/8(日) 12:00 配信 5




日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団が「廃棄漁網をアップサイクルした靴の発表会」を2021年7月20日に行った。アップサイクルとは、廃棄物に付加価値をつけて別の製品に生まれ変わらせる新しいリサイクルの形。

世界的な課題となっている海洋ごみ問題。環境省によると、海岸に漂着したプラスチックごみの中で最も割合が大きいのが漁網となっている。そこで、日本財団は2020年7月、企業間連携組織「アライアンス・フォー・ザ・ブルー（ALLIANCE FOR THE BLUE）」

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2957ee28a5ef1db3915804ddb7a147c1a63ae97c				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  [最大50%OFF] おトククーポン配布中

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライフ](#)[地域](#)

宿題にも使える「海×科目」を配信～動画とレポートで学習「おうちで学べる海の教室」～

2021/9/5(日) 12:00 配信   0



日本財団「海と日本プロジェクト」

全国各地で海にまつわる取り組みを行っている日本財団「海と日本プロジェクト」が、動画コンテンツ型のオンライン授業「おうちで学べる海の教室」を2021年7月から展開しています。日本財団 海洋事業部の部長・中嶋竜生さんは「コロナ禍で子ども達がなかなか海に行けない、また、海への探求心や好奇心が失われているという状況があるので、家にも海を感じられているようにと始めたもの」と言います。

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/7647ab36a719f9166aed60b5e23617f4895b841a				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 日曜日はふるさと納税がおトク

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライフ](#)[地域](#)

子ども達の海離れを減らしたい「海のおもいで創造プロジェクト」 ～国土交通省から表彰された日本財団・海野光行が主導する「海と日本プロジェクト」～

2021/9/19(日) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

「海のおもいで創造プロジェクト@鎌倉材木座」が2021年の夏に行われました。このイベントは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環です。

海と日本プロジェクトは、内閣府総合海洋政策本部、国土交通省海事局とともに2015年から開始。次世代を担う子どもや若者を中心に、様々な人が海への好奇心を持ち、行動を起こすムーブメントをつくることを目指しています。これまで「CHANGE FOR THE

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e49bc749bd9d3c0600cc653d1596df9650265685				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン 日曜日はふるさと納税がおトク

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

未来のノーベル賞受賞者がいるかも！？～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」を受賞したのは？～

2021/10/10(日) 18:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団と環境省が共同実施している「海ごみゼロアワード」の表彰式が、2021年10月6日に行われた。海ごみゼロアワードは、海洋ごみ対策において国内の優れた取り組みを発掘し、広く発信することが目的となっている。3度目の開催となった今年度は276件の応募があり、優秀な取り組みが数多くあったという。審査員のひとりである東京大学 大気海洋研究所の津田敦教授は「地球環境問題を扱った真鍋博士がノーベル賞を受賞したが、今回の受賞者、または応募者の中から10年後20年後30年後のノーベル賞受賞者が出ると確信している」と話した。

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/dbacfbdba916627a8c23ace8bfcf5da8c0110587				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライブ](#)[地域](#)

半年後には実証実験！無人運航船を児童が体験～無人運航船の実用化を目指す「MEGURI2040プロジェクト」が特別授業～

2021/10/24(日) 12:00 配信 1



**これは 無人運航船を通じて
未来の地球と海を考える特別授業です**

日本財団「海と日本プロジェクト」

無人運航船を通じて未来の地球と海を考える特別授業が、千葉市立海浜打瀬小学校の5年生を対象に行われました。この授業は、日本財団が支援し、無人運航船の実用化を目指している「MEGURI2040プロジェクト」の一環として実施されたものです。

無人運航船とは、船内のほぼ全ての作業をAIなどが担当し、無人で運航する船のこと。実現すると、人手不足などの問題の解決策となり、国内で年間1兆円ほどの経済効果が期待できるといいます。現在、2025年の実用化、2040年には国内で運航する船の半分を

No.	10	エリア	全国	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9413b9fa597b274236289293167b014fcbadc01d				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

クイズで海産物GET！海プロ市～食から海を知る「海のごちそうフェスティバル」～

2021/10/31(日) 12:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海プロ市」が、2021年10月16日に開催されました。このイベントは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として行われた「海のごちそうフェスティバル」のステージプログラムのひとつです。海のごちそうフェスティバルは、「おいしい、以上に知ってほしい海がある。」をテーマに、食から海のことを知ってもらおうというもので、日本全国の海にまつわる特産物の販売やステージプログラムなどが行われました。

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ef8f04b5ce0745e65a73605f6c376c6800147cac				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

鯛の旬は今！？食から海を知るフェス～ごちそうフェスティバルで発表された「海と食」に関する意識調査～

2021/10/31(日) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海のごちそうフェスティバル」が、2021年10月15日と16日に開催されました。このイベントは、日本財団が推進する海と日本プロジェクトの一環で、日本財団の常務理事・海野光行さんは「海と日本プロジェクトのテーマの中には、『海を味わう』というものがある。海のごちそうフェスティバルは、食のことで通じて海のことを深く知ってもらおうという企画」とコンセプトについて話しています。会場では、日本全国の海にまつわる特産物の販売やステージイベントなどが行われました。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a78ea191bc564737fd6a16ce6de53d493760884b				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

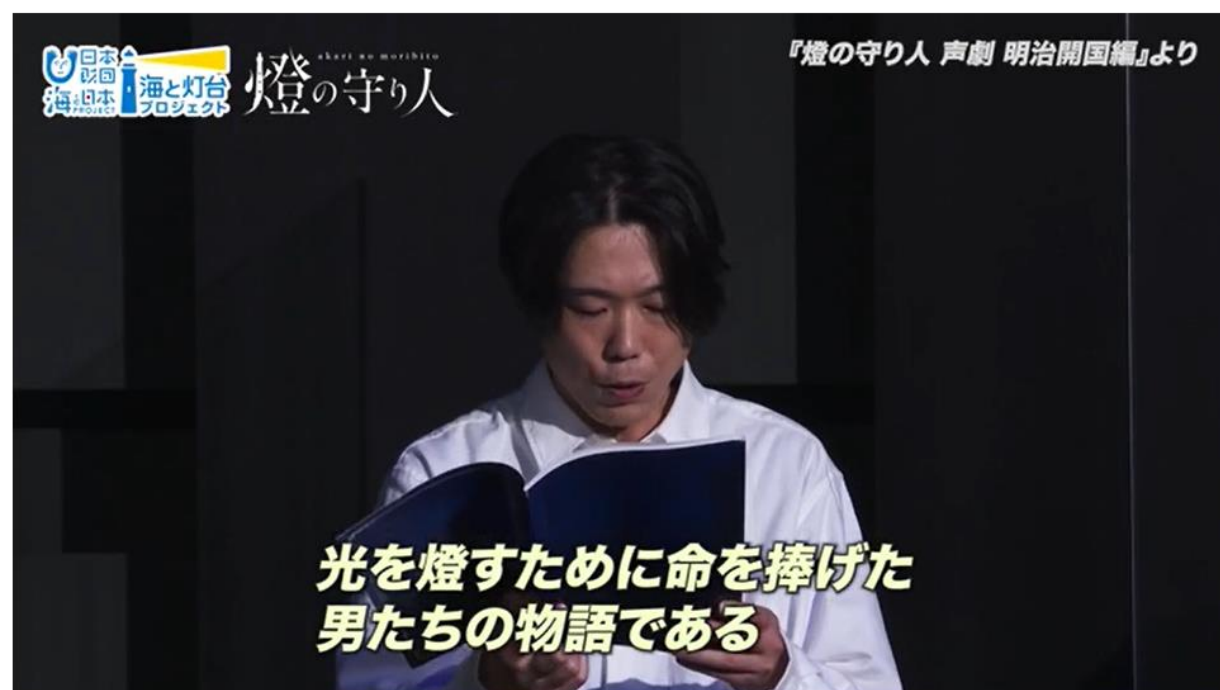
科学

ライブ

地域

灯台がイケメン化！人気声優による声劇～「燈の守り人」プロジェクト～

2021/11/6(土) 23:30 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

「灯台記念日」の2021年11月1日、灯台を題材にした新たなエンタメ「燈の守り人（あかりのもりびと）」プロジェクトでのイベントが行われました。燈の守り人は、実在の灯台を擬人化するプロジェクトで、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環です。

日本には3000を超える灯台がありますが、GPSの発達・普及により、道標としての役割

No.	13	エリア	島根県	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/04fc18237dd85987ea26b8083eeace1b05d568e8				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

熱源サミットの地・島根での海と学び～海を未来へと引き継ぐ者たち④「海と日本プロジェクトinしまね」と「熱源・武田祐子」～

2021/11/8(月) 22:30 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクト in しまね」（島根県）で特に力を入れているのが、「子ども達に向けた少しレベルの高い教育」だと言います。海と日本プロジェクト in しまねのプロデューサー・土江基行さんは「オリジナルイベントなど様々な活動の中で、学校で体験できないよ

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9a8890e7aa21f3db9b68761c67308c60fd48118c				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

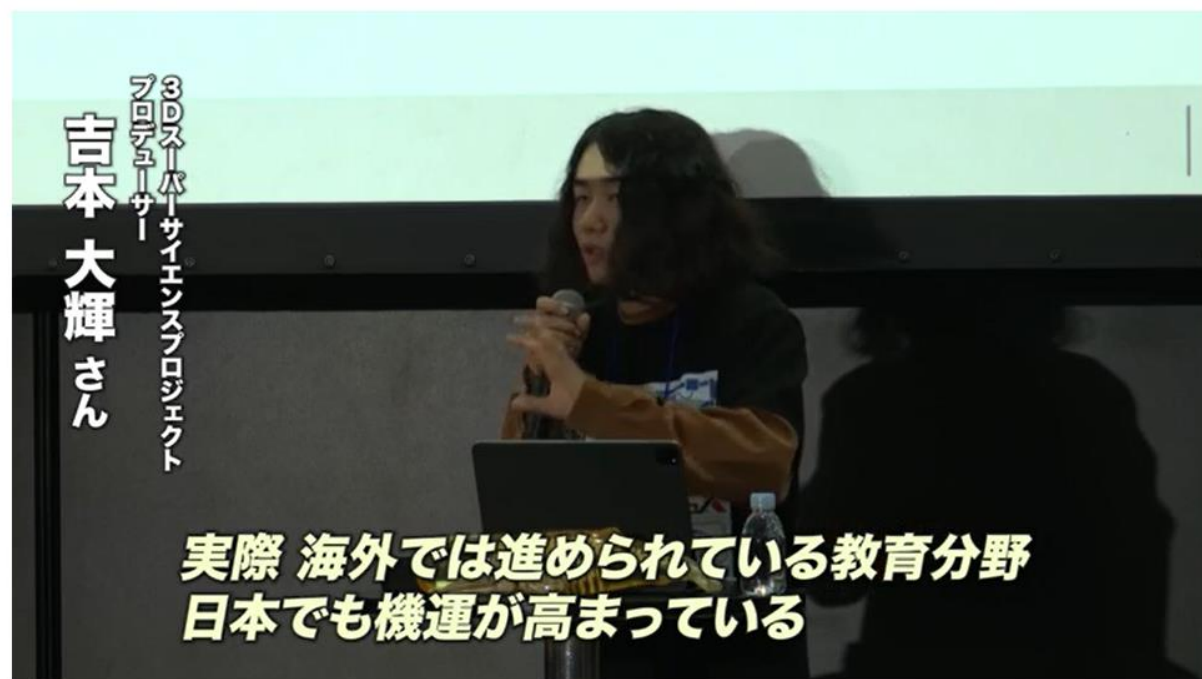
科学

ライフ

地域

「3D×海洋研究」でイノベーションを！～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」でのトークセッションinワコムコネクテッド・インク2021～

2021/12/12(日) 12:00 配信 0



**実際 海外では進められている教育分野
日本でも機運が高まっている**

日本財団「海と日本プロジェクト」

ワコムによる展示会「コネクテッド・インク2021」が、都内で11月16日と17日に行われました。「コネクテッド・インク2021」は、アート、人間表現、学びと、それらを支えるテクノロジーの新しい方向性を模索するイベントで、様々な企業がブースを出展したほか、世界4都市の会場とオンラインで繋がりました。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/cb12ac3ad014d12a55484758ed7bd9d3b5b91018				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライブ](#)[地域](#)

子ども達がサメを手配！？～「海の手配師」のお仕事を体験～

2021/12/12(日) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

「海のお仕事体験プロジェクト」の仕事体験イベントが、11月13日に静岡県沼津市で行われました。このプロジェクトは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」一環で、子ども達に海のお仕事を通じて、海の大切さや問題などを発見してもらうことが目的。全国各地で色々な体験イベントを実施しています。

この日 行われたのは「海の手配師」というお仕事体験です。「世界中の水族館や研究機関から依頼を受けて、生物を探し出して捕獲し、輸送して納入するというのが海の手配師

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a9fb4e4dd90c65e080f8a3db05901cca1a5fc722				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



日曜日はふるさと納税がおトク

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

カニを調べて2190日～「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」で最優秀賞を受賞した“あいおいカニカニブラザーズ”～

2021/12/19(日) 12:00 配信


SOCIAL INNOVATION NEWS

日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」

「海のキッズサポーター全国プレゼン大会」が、2021年10月3日に都内で初開催されました。海のキッズサポーターとは、未来に向かって海を守っていく活動をしている全国の小学4年生から中学生を認定したもので、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、全国から厳選された優秀なキッズが活動を発表。東京都の鈴木瑛梨花さんは「海洋プラスチックの80%以上が陸から来たものです。プラごみを海に流してしまった

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3d3ae5305d78fac45ff47a1b0c66e96576d9fd4e				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 日曜日はふるさと納税がおトク


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

ごみ拾い日本一に輝いた高校生は！？～全国30エリアから集結『日本財団「海と日本プロジェクト」 スポGOMI甲子園2021』の決勝大会～

2021/12/27(月) 22:45 配信 1



日本財団「海と日本プロジェクト」 スポGOMI甲子園2021の

日本財団「海と日本プロジェクト」

高校生ごみ拾い日本一を決める『日本財団「海と日本プロジェクト」 スポGOMI甲子園2021』の決勝大会が12月26日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技です。スポGOMI甲子園は高校生による全国大会で、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催されています。この日は、北は北海道、南は沖縄県まで地区予選を勝ち抜いた全国30エリアの代表チーム、そして、昨年リモート部門で優勝した

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e068c4b20cac5f9cd8aa49ab917cc8f93fed1950				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 🛒 50%OFF以上の商品が1000万個以上


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

スポーツごみ拾いをアニメ化～巨匠が手掛け、人気声優が演じる 「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」～

3/30(水) 22:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

スポGOMIをテーマに制作されたアニメ「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」の完成披露試写会が、都内で3月7日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技。近年は日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として、高校生ごみ拾い日本一を決める「スポGOMI甲子園」が開催されるなど大きな広がりを見せています。今回、世界初の試みとなったスポGOMIのアニメ

4 素材提供リスト

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先	
1	気軽に食べられなくなる!? 八戸名産のスルメイカ	全国	テレビ朝日	https://social-innovation-news.jp/?p=495
2	異業種が連携して海ごみ対策～包装材料メーカーから文房具の企業まで協働する「ALLIANCE FOR THE BLUE」～	全国	ALLIANCE FOR THE BLUE	https://social-innovation-news.jp/?p=1116
3	コロナ禍でも高校生が熱闘!～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定! スポGOMI甲子園～	福島県	福島中央テレビ	https://social-innovation-news.jp/?p=1166
		全国	NHK	
		全国	スポGOMI事務局	
		全国	BS朝日	
4	海野常務が令和3年「海の日」海事関係功労者大臣表彰	全国	エリア44局	記事なし。囲み及びインタビュー撮影素材を提供
5	院内学級で遠隔“海体験”～横浜南養護学校の子供達が「水中ドローン×VR」の技術に大興奮!～	全国	VRチーム ※1	https://social-innovation-news.jp/?p=1040
6	小泉環境相も使用! 廃漁網をアップサイクルした鞆～ALLIANCE FOR THE BLUEが取り組んできた廃棄漁網の活用～	東京	東京事務局	https://social-innovation-news.jp/?p=1273
7	育てたヒラメを最後どうする?～小学校で海の魚を養殖する「陸養プロジェクト」～	全国	NHK	https://social-innovation-news.jp/?p=1142
8	海ごみゼロアワード表彰式(10/03取材予定)	大分県	CFB大分	https://social-innovation-news.jp/?p=1285
9	海のごちそうフェスティバル(10/16取材予定分の海プロ市とLFCグランプリ)	全国	エリア44局	https://social-innovation-news.jp/?p=1294

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先	
10	スポGOMI甲子園2021全国大会	全国	エリア30局	https://storyteller.box.com/s/vrfarabv5111f8h33n05b03doh8tm6bn
		全国	他メディア6社	
11	マリンチャレンジプログラム2021全国大会	全国	エリア44局	https://storyteller.box.com/s/bknxchnvo63wq3ul0kstfsttbzttws3s
12	「スポGOMI ワールドカップエキシビジョンマッチ編」の完成披露試写会	全国	エリア30局	https://storyteller.box.com/s/shngoq6pib0cibpej1g1mclb968oa5jy
			他メディア6社	
13	MEGURI2040実証実験@猿島	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/y8r3sgo7hrgpu4o0hvr88xn56celye6m
14	MEGURI2040実証実験@新門司	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/3m0l815oghkwa5zea3t6zwaysiak9wuf
15	MEGURI2040実証実験@敦賀～境港	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/o7erl8ms0z7d0z1x9z44d5nne508lzmt
16	MEGURI2040実証実験@苫小牧～大洗港	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/tx0b8gtrbo5jryt5dnldelqfr4vn1rrv
17	MEGURI2040実証実験@DFFAS	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/f6fhjfiyh81kzfv65gmbpf0izlqhl7
18	MEGURI2040実証実験@八ッ場	全国	メディア各社 ※3	https://storyteller.box.com/s/98woa04687is7tb35czktpbpnbhy2e1c
		埼玉県	テレビ埼玉	https://storyteller.box.com/s/qxgdgw5ngd7x9qyem3sck4ti1ydml2dg

- ※ 1 VRチームからメディアへ提供
- ※ 2 赤字はエリア局以外への素材提供です
- ※ 3 日本財団広報に展開